

酒々井町

郷土研究会会報

第124号

平成19年4月1日
酒々井町郷土研究会
広報部

会長就任にあたって

会長 岡田 利光

さる一月二十八日の第三十一回定期総会において青木会長が退任され、私が推されて後任を務めることになりました。もとより浅学菲才ですが先輩及び会員の皆様のご意見をとり入れ一所懸命努めていく所存でございます。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

前の青木会長には八年の長きに亘り伝統ある郷土研究会を指導していただき有難うございました。

会の運営に当たっては

一、和をもって明るく楽しく、しかも魅力ある行事を計画して新会員の入りやすい郷土研究会にする。

二、名勝探訪・史跡巡り・見学会等に会員の皆様の積極的参加をお願いするとともに、これら行事における交通事故防止を一層推進する。

三、本佐倉城跡の整備が進むなか、これらに関わる町の歴史を勉強していく。

以上の事柄を重点にして事業計画を進めていきたいと思えます。終わりに永い間運営委員を務めていただき今回退かれた富沢勝氏、福田照子氏、佐藤照子氏、有田政勝氏ならびに会員の皆様のご健勝を祈念してご挨拶いたします。



退任にあたって

前会長 青木 朝次

郷土研に入会して三十年、皆様方の絶えることのないご援助により大

過なく過ごすことができました。人事の新陳代謝を図ることによって皆様に愛される郷土研究会として和に満ちた会にしたいと祈念しております。

会長としての八年間の想い出は、七草粥を食べる会でのお手伝いの方々の楽しい表情。木下街道、御成街道など歩く会での皆様の笑顔と路傍での草花や仏像に対する旺盛なる探究心でした。

また『親が飲めば酒、親子以外の者が飲むとただの水』という酒の井伝説に由るといわれる酒々井の地名は、三百余年前の黄門水戸光圀の甲寅紀行に記されていて、当時から酒々井町村が繁盛していたと言われていること。等々いろいろ思い出がありすぎて退任の挨拶の文章がまとまりません。

どうかこれまで続いてきた郷土研究会をこれからも皆様方若い力でお守り下さるようお願いいたします。

郷土研究会長を辞するにあたり、会員の皆様のご健勝と郷土研究会の益々のご発展をお祈りいたしまして退任のご挨拶の言葉といたします。

長福寺閑話

小坂 昭雄

一、縁起

寛延二年(一七四九)六月一日付『佐倉藩年寄部屋日記』によると

「上岩橋村名主、組頭共より以書付相達候、当村真言宗長福寺今昼九つ時(十二時)に出火寺本堂、客殿、庫裡、阿弥陀堂焼失仕候(以下略)」

大変残念なことに全ての堂宇が焼失してしまいました。

この火災を期に無住職時代に入つたのではなからうか、と考えられます。これ等の事情により当寺には、縁起についての文章的なものは何も保存されておりません。

お寺に火事はよくあることで、織田信長の延暦寺の焼討事件は別として、近くでは東勝寺(宗吾霊堂)が大正末期に火事となり、その復興が昭和の経済大恐慌に直面して難事業だったことを仄聞しております。現在は電化により蠟燭も電灯に変わり火災も減少したことでしょうが、一寸味気ない気がします。大分脇道にそれ申し訳ありません。

それでは開基は何時頃だったのでしようか。

物的証拠として本尊阿弥陀如来・脇侍多聞天・持国天等の造像時期から推察して平安中期か末期と史料されます。ただ、ある豪族が寺院を建立し、中央(京都)から本尊として遷座した事も考えられるので、造像開基だとする考えに否定的な説もあると聞いております。

しかし町史料集によると慶長九年(一六〇四)の「上岩橋郷御縄打水帳」に長福寺の名がみえるところから推して、室町時代中、末期頃であろうとも考えられます。

また、享保八年(一七二二)の「上岩橋村社書上帳」(町史料集)によると、庫裡は長六間、横四間半あり、阿弥陀堂は三間四面あったことが記され、境内面積は四反五畝歩などと記されているので、大きなお寺であったことが判ります。前述のように、本堂に残念ながら寛延二年(一七四九)に全焼いたしました。

平安末期から盛んになった庶民信仰とこの延長線上にある阿弥陀仏信仰により建立されたものと考えられ、堂宇の配置から室町期の様式を

留めておりました。現在の阿弥陀堂はこの大火の後建立された物でしょう。



柴又帝釈天山門

柴又帝釈天界隈の

散策を楽しむ

古川 好夫

十二月五日、柴又帝釈天参拝とその界隈の散策を楽しみました。参加三十六名、久しぶりの大所帯でした。京成酒々井駅八時二十四分発、高砂駅で乗り換え柴又駅下車、改札を出ると駅前広場には映画でお馴染みのフーテンの寅さんがお出迎えです。団子屋や土産物屋などが建ち並び、

昔ながらの趣が残る帝釈天参道を通り二天門をくぐると目の前に総檜造りの帝釈堂がありました。

柴又帝釈天として有名なこの寺院は経栄山題経寺と言ひ、日蓮宗の寺院です。別名を彫刻の寺とも言われ帝釈堂の内外には数多くの木彫が施されています。帝釈堂内陣の外側にある十枚の桐羽目彫刻は法華経の説話から選んだ題材を基に彫刻されたものです。この法華経説話彫刻は、大正末期から昭和九年にわたり、当時東京に住む名人彫刻師の人々により彫られ完成したものだそうです。文化財的価値の高いこれらの作品群を堪能しました。

大客殿では横山大観の屏風絵や日本一の南天の床柱を鑑賞し、名園である蓬溪園を左に見て回廊を渡り、祖師堂・釈迦堂に参拝、帝釈天を後にしました。

寅さん記念館を横目に江戸川堤防に出ると、眼下に雄大な江戸川の流れを一望、「矢切の渡し」には渡し船が繋がっていました。残念ながら今日は冬季運休日です。船は出ません。次回に期待する声があちらこちらで聞かれました。

山本亭の立派な長屋門をくぐり、松の雪つりも終わった書院庭園を鑑賞しながら帝釈天に戻りました。

十二時丁度、昭和の銘鐘といわれる梵鐘の美しい音色の響きに、ご利益を期待して今日の探訪を終わりました。

赤坂方面への初詣

浜口 信義

恒例の初詣は一月十九日、二十五名の参加者が高木副会長の案内と解説で参拝しました。

地下鉄千代田線乃木坂駅で下車し、出口を出たところに「乃木神社」があります。都心にもかかわらず静



豊川稲荷

寂な雰囲気のある神社で、祭神は明治天皇崩御に際して夫妻で殉死された乃木希典大将です。神社の横に乃木邸があり、殉死の部屋は外から観られ、またレンガ造りの厩舎があり、ここから馬で目の学習院へ往復されたのかなと想像されます。

暫らく歩き「豊川稲荷」に到着。稲荷さんには神社系と仏教系とがあり、豊川稲荷は仏教系のため、名物の朱の鳥居はありません。本山は愛知県豊川市の園福山妙厳寺で、赤坂別院は大岡越前守の江戸屋敷にあつたものを明治二十年に現在地にお祀りしたものです。

山門を入ると御影石に五千万円と一千万円の寄付額を彫った石碑が並んで建っています。これらを集計した人がいて合計二億円になるそうです。普通の寺院とは違う集金力には驚きです。この他、幟や提灯に有名な人の名前がありました。

「赤坂日枝神社」は山の上であり、エスカレーターで昇った頂上からの眺めは高層ビル群で良くないのですが、神社の森が心を鎮めてくれました。この神社は江戸城の鎮守として日吉山王権現として祀られ、明治の

神仏分離で現社号になりました。祭神は、大山咋神で、近江国の比叡山の護り神だそうで、日枝もこの比叡から採っているといわれています。境内には紅梅も咲いており、早春を感じる暖かい日の初詣となりました。

酒の井伝説

大川 昌克

酒々井という地名の由来の地「伝説酒の井碑」は円福院境内にあり、昭和四十年代まで境内には庫裡が建ち、疎開者が生活をしていた。

その後昭和六十年京増町長の時代に、板碑の移動、酒の井の碑が建立されたが、老朽化によりその数年後庫裡のとり壊しが行われ、境内は荒れ放題。近隣者による草取りも追いつかず、地名由来の地としては名ばかり。由緒ある地を後世に残したいとの思いから有志数名にて整備することとした。

平成十八年五月より作業に着手、知人、友人から寄贈された材木・石・植木などを活用して井戸枠・ベンチ・テーブルを設け、さらに飛び石を敷

き詰め整備、植木も自分達で移植して六月末に第一段階を終了した。その後、見ていると見学者も日を追うごとに増えており、来訪者に喜んでもらえるのは嬉しいものだ。

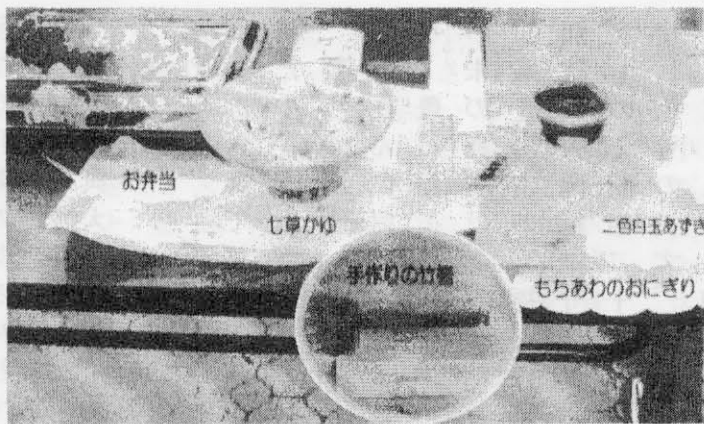
将来的には井戸から水が湧き出し、水が使えるように工夫したいと考えている。



「七草粥を食べる会」を終えて

今年も盛大に、皆様に喜ばれながら終えることができてホットしています。ちよつと裏話を披露。年が明けると野草部の動きは、活発になり、野草の生えている所や育ち具合を何度も見廻ります。実施日近くにすると摘みに行き、それをきれいに仕分けし洗い保存します。前日には買

当日は、女性の有志の方は九時前から調理室で、天ぷらを揚げる、野菜を湯がく、団子を作る、粥を炊くなど、猫の手もかりたいぐらい忙しいです。また、男性役員も早くから重い瀬戸物を運んだり、講堂の机や椅子、テーブルのうえのセッティングなどを担当します。今年は担当者の手順、指示のおかげで時間どうりに開会することができ、後片付けも早く終わり、手伝ってくださった方々に感謝しつつ、私達も早く帰宅することが出来ました。



手作りの竹の箸と箸置きが供されましたが、これも数人の方がこつこつと作つたもので、当日まで青々とした竹の色を保つておくのが大変でした。

酒々井町郷土研究会 平成19・20年度役員・運営委員名簿

職名	氏名	住所	電話
顧問	沖田 善三郎		
	青木 朝次		
会長	岡田 利光		
副会長	高木 正浩		
	寺本 恵美		
会計	丸山 正義		
	(兼任) 久我 かず子		
監事	櫻井 徳三		
	斉藤 ヨシ		
運営委員(総務部)	久我 かず子		
	(兼任) 岡田 利光		
(広報部)	木村 雍子		
	穂満 弘道		
	(兼任) 寺本 恵美		
(研修部)	(兼任) 斉藤 ヨシ		
	執行 正勝		
(野草部)	浜口 信義		
	古川 好夫		
	養輪 光正		
	行武 政市		
	* 石井 康子		
	大沢 博		
	近田 トメ子		

(注) 石井康子氏(野草部)は、3月の運営委員会で選任されました。

第三十一回定期総会報告

平成十九年一月二十八日午後一時三十分より、中央公民館研修室に於いて第三十一回定期総会が開催されました。寒い日でしたが好天に恵まれ七十八名の会員のご出席のなか、小坂町長のご挨拶を受けた後、平成十八年度事業報告と決算報告が承認され、続いて十九年度の事業計画案・予算案も承認されました。

役員改選で青木朝次会長と上田悦子副会長、運営委員の富沢勝・福田照子・佐藤照子・有田政勝の各氏が退任され、岡田利光氏が会長、寺本恵美氏が副会長として、また欠員中の監事に齋藤ヨシ氏が選任され夫々承認されました。



平成19年度 事業計画

酒々井町郷土研究会

	事業名	回数	1期			2期			3期			4期		
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	定期総会	1	○											
2	会報発行	4	○			○			○			○		
3	講座・学習会	郷土史講座	1							○				
		町内史跡巡り	1				○							
		史談会	7		○	○		○	○	○		○		○
		古文書*	4		○		○		○			○		
		研究会	3				○			○		○		
4	研修・見学会	県外見学会	1					○						
		日帰り見学会	2			○							○	
		名勝探訪	4	○					○			○		○
5	野草の会	七草粥を食べる会	1		○									
		野草観察会	2				○				○			
6	役員会・運営委員会	5	○	○			○			○			○	

(注) 「古文書を読む会」は、都合により4月を以って終了いたします。

見学

案内

春の野草観察会

泉自然公園へ

四月二十四日(火)

雨天決行

野草観察会をバスで行ける所への要望があり、久しぶりに町外へ、千葉市の泉自然公園へ行きます。

自然相手の植物観察、暖冬だった今年は、どんな野草に出会えるのか楽しみです。ご参加の皆様お弁当、飲物、敷物は忘れずにお持ち下さい。なお、雨天の場合は公園内の講堂でお弁当を食べます。



たんぽぽ

「心頭を滅却すれば火も自ずから涼し」と快川和尚が偈を残したことで知られています。

甲府城址

甲府城は武田氏滅亡後、秀吉の命令により築城され、江戸時代になると將軍家一門や重臣が城主となり、大名の城として整備され幕末まで存続しました。

武田神社

武田氏の信虎・信玄・勝頼三代の住んだつつじが崎館跡に大正八年に創建され、甲斐の名將武田信玄がまつられています。

信玄公の墓

信玄の墓は恵林寺、諏訪湖、高野山など全国にあり、万一の外敵を恐れて埋葬地を秘密にしていた結果とも見られています。

甲斐善光寺

武田信玄によって創建された浄土宗の寺で、川中島の戦いで信濃善光寺に戦火が及ぶのを恐れた信玄が、本尊や寺宝をここに移し、後に本尊は信濃善光寺に再度移され、前立の阿弥陀三尊像が現在の本尊として重要文化財に指定されています。

昇仙峡

甲府盆地の北側、笛吹川の支流の荒川上流の溪谷。秩父多摩甲斐国立公園に属する景勝地。奇岩が至るところに見られるのでお楽しみに。

訂正のお願い

会報百二十三号4ページ4行めのもうでを削除してください。ご投稿頂いた亀井様には深くお詫び申し上げます。

名勝探訪

小石川方面

六月八日(金)

雨天代替 六月十二日(火)

日暮里で京浜東北線に乗り換え、王子駅前の紙の博物館へ行きます。小さいながらもなかなか興味深いものが展示されています。

交通量の激しい道を通り飛鳥山公園へ、次に緑の木々の中を通り旧古河庭園に行きます。西洋庭園と和式庭園が良く調和されています。

駒込駅に来て解散、駅付近でゆっくり昼食をとり、家路に着きたいと思えます。時間のある方は六義園に行かれるのもよいでしょう。

県外見学

甲府方面

五月八日(火)〜九日(水)

宿泊 石和常磐ホテル

電話 055-262-6111

風林火山の旗の下、天下統一を目指した武田信玄の故郷を訪ねます。

恵林寺

甲斐の臨済宗の中心、武田氏の菩提寺。天目山の戦いで武田氏が滅亡した後、織田軍の焼き討ちに会い、

町内史跡巡り

酒々井宿と本佐倉城跡

五月二十日(日)
小雨決行

江戸時代の文化・文政のころに成田詣で賑わった酒々井宿周辺と、千葉氏百年の居城であった本佐倉城跡を散策してみましよう。

江戸日本橋から成田村まで約十六里の成田道の宿場町として栄えた酒々井宿とその周辺を訪ねながら当時の面影を甦らせてみたいと思います。酒々井の鎮守、麻賀多神社の境内のケヤキやシイの大樹は当時の成田詣の往來の人たちを毎日眺めていたことでしょう。

勝蔵院の不動明王は、成田の姉不動と伝えられて成田詣の人たちが途中にお参りして、酒々井宿繁栄の中心になりました。

本佐倉城跡は中世の城郭として平成十年に国指定史跡になったところで現在整備事業が行われています。下総守護の千葉氏が房総の水陸交通の要衝に築いたこの本佐倉城は、湿地帯に囲まれた堅固な城だったと考えられます。今回は千葉氏の守護神を奉祀した妙見神社、城の主郭である城山・奥の山を訪ねたいと思います。



郷土研日誌		
月日	内容	参加者
18・12・22	野草部打合せ	3
12・24	会報印刷	4
12・27	会報発送	18
	七草粥献立会議	7
19・1・9	赤坂方面下見	3
19・1・16	運営委員会	19
1・19	名勝探訪「赤坂方面」	25
1・26	総会資料作成	12
1・28	第31回定期総会	78
2・3	研究会(文化財)	13
2・6	七草粥 下準備	9
2・8	七草粥 下準備	12
2・9	七草粥を食べる会	96
2・15	古文書を読む会	12
2・16	会報打合せ	4
2・17	研修部会	7
2・26	「市原方面」下見	2
3・3	運営委員会	15
	史談会	15
4	会報編集	3
3・6	名勝探訪「市原方面」	33
3・13	会報編集	3
3・20	研究会(文化財)	9
	会報校正	4

会計報告

七草粥を食べる会(平成19年2月9日)

参加者84名 招待者12名

会費 700円

収入 700円×84=58,800円

祝儀(会費として) 10,700円

計 69,500円

支出 材料費 40,534円

諸雑費 24,385円

計 64,919円

69,500-64,919=4,581

残金 4,581円(野草会計へ)

会計報告

市原方面(平成19年3月6日)

参加者33名 会費1,500円

収入 1,500円×33=49,500円

49,500円

支出 昼食代 36,720円

1080円×34=36,720円

諸雑費 9,119円

計 45,839円

49,500-45,839=3,661

残金 3,661円(研修部会計へ)

あとがき

気まぐれな気象ながら暑さ寒さも彼岸までと言うとおり、梅、桃、桜の花が順に開き春の陽光の輝く中、世情はともあれ、会員の皆様へは明るく楽しく心豊かになる行事をいろいろ取り揃えてご案内申し上げます。ふるってご参加ください。また、今後の郷土研究会の行事につきましては、ご意見、アイデア等をお寄せいただけると、計画に一層励みが増え、大変ありがたいと存じますのでどうぞよろしくお願いいたします。

計報

郷土研究会で平成五年より十二年間会報作成でご活躍された上野和子さんが二月七日ご逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。合掌

郷土研行事案内

平成19年4月～6月

	4 月	5 月	6 月
史談会	休 講	休 講 (5日が祝日にあたるため)	2日(土) 13:30 中央公民館会議室 「和田のむかし」⑦ 講師：高橋健一先生
古文書を 読む会	4月17日(火) 13:30 中央公民館会議室 「岡田家文書」(最終回) 講師：青木朝次顧問 *当講座は、都合により今回を以って終了いたします。		
研究会	4月 7日(土) 13:30 中央公民館会議室 テーマ 「千葉氏の研究」(第4回) 講師：浜口信義氏 (注) この研究会は、不定期に行われます。		
野草観察会	4月24日(火) 雨天決行 観察場所 泉自然公園(千葉市) 町バス利用 定員 33名 集合時刻・場所 9:30 中央公民館前広場 15:30頃帰着予定 参加費 200円(保険料等) 弁当・飲み物、敷物等各自持参(昼食は、公園内) *キャンセル 実施日の3日前までに、犬島(496-6258)へご連絡下さい。 ◀申込受付 4月 6日(金) 9:00～10:00 中央公民館ロビー▶		
県外見学会	「甲府方面」 5月 8日(火)～9日(水) 参加費 21,000円(観光バス利用) 定員 45名 宿泊先 石和常磐ホテル (Tel. 055-262-6111) 集合時刻・場所 6:50 中央公民館前広場 コース 第1日 公民館—佐倉IC—高井戸—勝沼IC—恵林寺<見学・昼食> —甲府城址舞鶴公園—武田神社—信玄公墓—石和温泉(泊) 第2日 宿泊所—ワイン工場—甲斐善光寺—昇仙峡<昼食>—甲府昭和IC —高井戸—佐倉IC—公民館 18:00頃帰着予定 (コースに一部変更の場合あり) *キャンセル 実施日の5日前までに、寺本 へご連絡下さい。 ◀申込受付 4月 6日(金) 9:00～10:00 中央公民館ロビー▶		
町内史跡 めぐり	「酒々井宿と本佐倉城跡」 5月20日(日) 小雨決行(当日の問合せ 岡田まで) 参加費(資料代) 100円 弁当、飲み物等各自持参 集合時刻・場所 9:00 京成酒々井駅東口(タクシー乗り場のある側)前広場 コース 京成酒々井駅…水神社・中川の双体道祖神…麻賀多神社…酒の井 …勝蔵院・酒々井宿…吉祥寺…根古谷の館<昼食>…根古谷の妙見社 …東山馬場…本佐倉城跡(奥ノ山・城山・倉址等)…大佐倉駅にて解散 (約8キロ) 15:00頃解散予定 (コースに一部変更の場合あり)		
名勝探訪	「王子方面」 6月 8日(金) 雨天代替日 6月12日(火) 参加費(資料代) 100円(別途、入館料等が必要) 集合時間・場所 8:10 京成酒々井駅・構内改札口前(階段上) コース 京成酒々井駅—日暮里駅—王子駅…紙の博物館…飛鳥山公園…旧古河邸 …駒込駅 ⇒ 13:00頃現地解散、その後自由昼食 (当日の問合せ 寺本まで (コースに一部変更の場合あり))		